

平成26年度 第1回 天然記念物「高宕山のサル生息地」の

サルによる被害防止管理委員会会議録

1 会議の名	平成26年度 第1回 天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理委員会会議
2 開催日時	平成26年 7月15日 (火) 14時00分～15時02分
3 開催場所	富津市役所5階 503会議室
4 審議等事項	(1) 平成25年度 被害防止管理事業報告及び決算について (2) その他
5 出席者名	(委員) 高橋 恭市、武次 治幸、渡辺 隆二、本吉 貞夫 庄司 優人、茂田 達也、神子 勇、伊田 重美、 武井 良彦、池田 文隆、高木 淳子 (環境省)戸田 博史 (千葉県)平田 和弘、大澤 浩司 (株)野生動物保護管理事務所)白井 啓 事務局 (調査団)直井 洋司、萩原 光、白鳥 大祐 (富津市)古宮 浩二、島田 守、桐村 修司、知念 孝男 (君津市)矢野 淳一、當眞 紀子
6 公開又は非公開の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	
8 傍聴人数	0 人 (定員5人)
9 所管課	教育部生涯学習課文化係 電話 0439-80-1342
10 会議録 (発言の内容)	別紙のとおり

発言者	発言内容
富津市生涯学習課島田課長	<p>定刻となりましたので、平成26年度 第1回天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理委員会会議を始めさせていただきます。</p> <p>本日の会議は、出席者11名、欠席者2名です。過半数の委員の出席を得ており、本委員会設置要綱第7条第2項により成立しております。</p> <p>会議に先立ちまして、委員長であります、高橋富津市副市長から挨拶を申し上げます。</p>
高橋委員長	<p>委員の皆様におかれましては、公私共にご多忙の中、ご臨席を賜りありがとうございます。</p> <p>また、日頃当地域の文化財行政にご理解とご協力を頂きまして深く感謝申し上げます</p> <p>昭和62年に設置されました当委員会でございますが、サルや猪・鹿等による作物への被害はいまだ多く、その役割は益々重要なものとなっております。</p> <p>本日はお忙しい中、環境省関東地方環境事務所から戸田様、千葉県教育庁教育振興部文化財課から平田様、千葉県環境生活部自然保護課から大澤様、(株)野生動物保護管理事務所から白井様にお越しいただいております。</p> <p>今後の方針等についてお話をさせていただけると思います。</p> <p>さて、本日の議題は</p> <p>(1) 平成25年度事業報告および決算について</p> <p>(2) その他</p> <p>でございます。</p> <p>様々な立場からのご意見、ご提案等活発な審議をお願いいたしまして、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。</p>
島田生涯学習課長	<p>議題に入ります前に、今年度第1回目の会議で、委員も変わりましたことから、委員の皆様、事務局等の自己紹介の時間をとりたいと思います。</p> <p>恐れ入りますが、お手元の席次表で委員長から右回りに御起立の上、自己紹介をお願いします。</p> <p>(委員自己紹介)</p> <p>(事務局自己紹介)</p>

<p>島田生涯学習 課長</p>	<p>続きまして、お手元に配布した資料の確認をお願いいたします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 席次表</li> <li>2 会議次第</li> <li>3 当委員会設置要綱</li> <li>4 当委員会等名簿</li> <li>5 平成25年度 被害防止管理事業調査報告書</li> <li>6 平成25年度 被害防止管理事業決算書</li> </ol> <p>本日の会議資料は以上ですが、不足はございませんでしょうか。 ないようでしたら、資料の確認を終わります。</p>
<p>島田生涯学習 課長</p>	<p>次に会議の公開についてですが、この会議は、富津市及び君津市情報公開条例により一般に公開されます。公開の方法としまして、会議の終了後、会議録を作成し、両市のホームページにて公開します。</p> <p>これに伴いまして、会議録が会議の経過を記載し、事実と相違ないことを証するために、委員の中から2名の方に署名委員として署名を頂きたいと思います。</p> <p>議題に入る前に、2名の方をお選びいただき、後日、御署名を頂きたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。</p> <p>また、会議録作成のために録音させていただきますのでご了承のほどお願いいたします。</p>
<p>高橋 議長</p>	<p>では、本委員会設置要綱第7条第3項の規定により、議長を高橋委員長にお願いします。</p> <p>規定によりまして、議長を務めさせていただきます。円滑な議事進行を務めてまいりたいと思います。</p> <p>それでは、議題に入る前に署名委員を2名決めたいと思います。こちらからの指名でよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>高木委員と庄司委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>では、議題に入ります。議題(1)平成25年度被害防止管理事業報告および決算について事務局の説明を求めます。</p>
<p>(君津市) 眞 文化財係長</p>	<p>事業報告について説明させていただきます。</p> <p>○ 資料『平成25年度 天然記念物「高岩山のサル生息地」のサル</p>

(君津市) 眞眞  
文化財係長

による被害防止管理事業報告書』より事業報告について説明。

・事業報告

( 被害防止・生態調査と個体数管理・天然記念物指定地域の環境  
改変と生息環境調査の事業3本柱について概要を説明 )

○被害防止 (資料：7ページ～17ページ)

・電気柵による被害防止

既設電気柵の維持管理と改修を行いました。

維持管理については、月1回以上の点検及び補修、富津市宇藤原地区の周回電気柵の草刈りを行いました。また、今年度は積雪による故障が相次ぎ、その補修など、電気柵の維持管理を行いました。

既設電気柵の改修については、君津市と富津市とを合わせて107mの改修を行いました。昨年度、採用した電気柵の仕様は、サルはもちろん、猪や鹿に対しての防除効果が今まで以上に高いと思われる構造になっております。

・被害多発期の追い払いによる被害防止

今年度は8月8日から9月8日までの32日間、主にT-I群の追い払いを行いました。また、T-I群以外の群れの遊動が指定地域や要現状変更範囲付近で確認された場合も、できるかぎり追い払いを行いました。延べ75人日で実施し、このうち13人日はボランティアの方々にご協力を頂きました。

・被害実態調査 (資料：17ページ 図—1. 8の説明)

今年度は合計55戸を対象に調査を行いました。

君津地区、富津地区、宇藤原地区のうち、宇藤原地区の被害が被害率・被害指数ともに最も少なくなっております。宇藤原地区で被害が少ない理由としては、宇藤原地区を主に遊動する石見堂群の遊動頻度が減少している印象があります。また、本事業により設置した電気柵の効果が表れていると考えております。

○生態調査と個体数管理 (資料：18ページ～38ページ)

・テレメーターの装着

昨年度は、テレメーターを装着することを目的に10月10日から2014年3月27日までの期間に小型の箱ワナ計10台を計8カ所に設置しました。その結果、11頭(うち1頭は有害鳥獣駆除個体を譲り受けたもの)を捕獲し、1頭にテレメーターを装着しました。これらの捕獲個体から採取した血液サンプルについては、環境省関東地方環境事務所が実施している「ニホンザル交雑個体防除推進調査」において、県内の交雑進行状況等を把握するDNA分析のために試料の提供を行いました。

・生態調査

今年度は、T-I群、T-II群、石見堂群、旅名A群、及び25年度新規テレメーター装着群の計5群の追跡調査を実施しました。

( 上記5群の遊動確認地点と行動域・個体数について報告。 )

(君津市) 眞眞  
文化財係長

・ T-I 群の過去データの取りまとめ

昨年度は、本事業開始当初（昭和55年）から継続して調査している T-I 群の行動域の変化について取りまとめました。

本事業が開始された当時の T-I 群の行動域は、要現況変更範囲付近（富津市宇藤原・高溝地区）でありました。昭和55年から30年以上が経過した現在の行動域は、本事業開始当初に比べ、北へ、さらに西へ移動し、本事業の指定地域外を主に遊動している傾向となっております。

・ 個体数管理

今年度は T-I 群の 95 頭と石見堂群と思われる電波発信の無い群れの 92 頭の 2 群についてカウントすることができました。

また、今年度、天然記念物指定地域周辺で、君津市および富津市の有害鳥獣駆除により駆除されたサルは、君津市側で 42 頭、富津市側で 64 頭、合計 106 頭でありました。

○天然記念物指定地域の環境改変と生息環境調査

（資料：39ページ～43ページ）

25年度は環境改変は実施せず、生息環境について調査しました。

富津市宇藤原地区にある峰上ステーションに測定器を設置し気温と降雨量を測定しました。昨年は、台風26号があった関係で10月の降雨量が24年度に比べて2倍以上の降雨量となっております。逆に、7・8月の降雨量は24年度のそれと比べて半分程度となっております。気温については大きな変化はありませんでしたが、24年度に比べると、8月から9月にかけての最低気温の落ち込みが顕著でありました。3月についても、氷点下以下の日が多くみられ、2月の積雪もありましたので、昨年度は寒い冬であったという印象です。

事業報告は以上となります

(富津市) 桐村  
文化係長

それでは引き続き平成25年度天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理事業決算書についてご説明いたします。

○決算説明について

（資料：『平成25年度 天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理事業決算書』に沿って説明）

歳入	（収入額）	4,473,000円
内訳	富津市	2,460,000円
	君津市	2,013,000円

歳出	（予算額）	4,473,000円
	報償費	108,000円
	賃金	3,370,000円
	旅費	295,140円
	需用費	688,697円

<p>(君津市) 桐村 文化係長</p> <p>(調査団) 直井</p>	<p style="text-align: center;">役務費 11,163円</p> <p>決算報告については以上となります。</p> <p>事業報告について補足説明させていただきます。</p> <p>○資料『平成25年度 天然記念物「高岩山のサル生息地」のサルによる被害防止管理事業報告書』より補足説明</p> <p>・電気柵についての説明（資料：12ページ 図—1.6の説明）      昨年度、日亜鋼業製のオリジナルの電気柵を初めて本事業において導入しました。この社のオリジナル製品は以前から房総半島で多くみられるタイプでございます。このタイプを採用するにあたっては、このオリジナルの製品に我々が改良してきた従来のタイプの電気柵の要素を一部加えてオリジナルのものとは若干違うものとなっております。オリジナル製品は上部まで金網であるのに対して、我々が使用しているタイプは上部をネットとしております。このネットは従来のネットを少し改良して使用しております、一番上だけにプラスの電流、ネットは斜めに網を張り外側に向かって倒れるような形で設置をし、ネットの途中はマイナスの電気が流れる仕様となっております。</p> <p>サルにはポールを使って垂直に登るのではなくて、なるべく、ネットを使って登らせるために斜めに設置してあります。ネズミ返しのような形にネットを設置しておりますのは、サルに、プラスの電気が流れるネットの一番上とマイナスの電気が流れるネットの途中とを同時に触らせる効果を狙ってのことでございます。</p> <p>この新タイプの電気柵については試験的に設置をしたという状況ではありますが、十分に効果が出るものと期待しております。</p> <p>・被害調査について（資料：15ページから17ページ）      農家の方々を調査員が訪問し聞き取りにより調査するという形をとっております。口頭での調査であるため、被害の実状について細部まで把握できているかという点については懸念しておりますが、多くの方に聞き取り調査をすることによって被害の傾向は掴めるのではないかと考えております。</p> <p>・表の説明（資料：17ページ 図—1.8）      被害率については、聞き取り調査をした戸数の方々のうち何戸が被害を受けたのかという割合を表す指数であります。これに対して、被害指数は、被害率に被害の大小を加味した指数となっております。</p> <p>減少傾向の理由について、農作物によっては、サルによる被害よりも猪の被害の方が目立つことが挙げられます。農家の方の中には、サルによる被害よりも猪による被害に目がいってしまっている場合があるため、サルによる被害が正確な形として上がってこないということが言えます。例えば、稲を例にとりますと、サルが被害を出したその日の夜の内に猪がやってきて田んぼを全面的に荒らしてしまうということがございます。そういった場合は、サルによる被害ということに意識がいかない可能性が考えられます。</p>
--	--

<p>(調査団)直井</p>	<p>・ T-I 群の行動域について (資料 : 33 ページ 図-2.9)</p> <p>観察地点の外郭をとった行動域は要現状変更範囲の地域と重なっておりますが、現実の観察地点は、要現状変更範囲の中にはないというのが近年の傾向でございます。元々は、昭和55年に文化庁の予算ではじめた事業の T-I 群の行動域を要現状変更範囲と定めたわけでございます。行動域は、この当初の時より、北に、西に移動してきている次第ですが、昨年度は南下をはじめましたということでございます。場合によっては、将来的に、再び、要現状変更範囲に入ってくるということも考えられます。</p> <p>今回の T-I 群の過去データの取りまとめにより、30年間かけてある群れは行動域を大きく変えるものであるということが把握できました。また、T-I 群の行動域を要現状変更範囲とすれば良いという当時の考えは、結果としては、他にもっと適切な方法があったのではないかなと考えている現状です。</p> <p>・ 石見堂群について (資料 : 31 ページ 図-2.8)</p> <p>この群れについてはオトナのメスに発信器をつけていないため、正確な行動域は把握できておりません。しかし、シンジというオスの個体にテレメーターを装着しているためある程度の行動域 (赤い点線) は把握しております。また、近年出没している、発信器の電波発信は無いが大きな群れを調査してみますと、緑の点線のとおり大きな行動域となります。この赤色の線と緑色の線との全体が石見堂群の行動域ではないかと考えております。</p> <p>要現状変更範囲と田倉地区については、石見堂群が被害を出す主な群れとなっていましたので、昨年度は、石見堂群の個体に発信器を装着させることを大きな目標として活動してきましたが、中々、発信器の装着までは至っていない現状であります。</p> <p>近年の傾向として、中々、オトナメスが捕獲できないという状況がみられます。これは、本事業と関係がある天然記念物指定地域の周辺のみならず、房総半島全体にみられる傾向でございます。今後は、捕獲方法等を更に開発していく必要があると考えております。</p> <p>今年度も捕獲し発信器を装着することを目指して業務を行ってまいります。</p>
<p>高橋議長</p>	<p>ありがとうございました。 説明が終わりましたので質疑応答に移ります。 何か御質問等ございませんか。</p>
<p>委員一同</p>	<p>特になし。</p>
<p>高橋議長</p>	<p>御質疑もないようですので、議題(1)平成25年度事業報告及び決算について、御承認頂けますでしょうか。</p>
<p>委員一同</p>	<p>異議なし。</p>

高橋議長	<p>どうもありがとうございます。本件は承認されました。</p> <p>続きまして、議題（２） その他 でございますが、本日、国・県から3名の方々がお見えになっておりますので、お話を伺いたいと思います。</p> <p>はじめに、環境省 関東地方環境事務所の戸田様、お願いします。</p>
環境省 戸田 担当官	<p>○ 「特定外来生物防除推進調査（ニホンザル交雑個体）業務」について説明。</p> <p>環境省では特定外来生物の防除に関して外来生物法という法律を所管しております。</p> <p>この法律は25年の6月11日に改正され施行されたところでございます。この中、ニホンザル・タイワンザル・アカゲザルの交雑個体についても生態系への影響が著しいということで特定外来生物に指定されております。房総半島における交雑個体への環境省の関わりですが、25年度から3年間を目途に、モデル的に、群れの交雑の度合いについて調査を行って参ります。また、交雑判定の手法についても開発を図っていく次第でございます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象群れの選定について</li> </ul> <p>今回は、君津市・富津市両教委員会の関係ですと、旅名A群とT-II群を環境省業務ということで対象群に選定させていただきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・捕獲の方法と捕獲後の対応について</li> </ul> <p>上記2群を対象に箱罠により捕獲を行います。</p> <p>捕獲した個体について、留め置きをしている間に遺伝子検査を行い、交雑個体と判定された個体については処分し、純粋なニホンザルと判定された個体については放獣するものであります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交雑個体の判断基準について</li> </ul> <p>昨年度は、かずさ方式や霊長類方式などの方式の精度について比較検討を致しました。今年度は、交雑個体の判断基準について、それら検証した手法を組み合わせるより精度を上げていこうと考えております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外形による交雑個体の判定について</li> </ul> <p>今年度は、外見上で交雑個体を判定できるように判断基準等を検討していきます。</p> <p>外見上で交雑個体であることを見分けられるようになれば、千葉県さんが進めている「第3次千葉県特定鳥獣保護管理計画（ニホンザル）」の中でも交雑個体の判定を現場でも出来るようになりますので、労力の圧縮にも繋がるのではないかと思います。</p>
高橋議長	<p>戸田様、ありがとうございました。</p> <p>ただ今の戸田様のご説明について何か御質問等はございますでしょうか。</p>
委員一同	<p>特になし。</p>



高橋議長	<p>ないようですので、続きまして、千葉県文化財課の平田様、お願いいたします。</p>
<p>県文化財課 平田主任文化財主事</p>	<p>このアカゲザル及び交雑個体を駆除していく事業ですが、ニホンザルは国の指定文化財と関係が深いものでございます。</p> <p>このアカゲザルの交雑問題は確かに、指定天然記念物との関係で、大きな問題であると認識していたところでありました。</p> <p>そこを踏まえて、千葉県教育委員会としては、文化庁とこのモデル事業とを結びつけるということではありますが、できる限り、交雑状況が正確に把握していけるように協力していただければと思います。よろしくをお願いいたします。</p>
高橋議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、同じく千葉県の自然保護課の大澤様、お願いいたします。</p>
<p>県自然保護課 大澤副主幹</p>	<p>残念ながら、千葉県内においてはニホンザルとアカゲザルとの交雑が発生してしまっている現状でございます。環境省さんも千葉県に協力していただけるということで、判定手法について、既存の手法ではなかなかうまく判定できないこと、現場での即座の判断ができないということが課題として挙げられます。対策を進めていく上では現場で判定ができるようになることが一番重要でありますので、今、環境省さんが進めている形態での判定、あるいは、捕獲に頼らない糞サンプルによる面的な交雑度合いの把握を千葉県としては期待しているところでございます。</p> <p>今後、環境省さんの事業で出てきた成果を活用しながら、千葉県としての交雑問題に取り組んでまいります。サルについては、農業被害の問題もあるので群れ管理による対策を進めていく必要があります。ニホンザルの保護管理に交雑問題をどのように組み合わせるかが今後の課題となるところ、高宕山等の問題も、農業被害と文化財としての保護の両面があるので、交雑問題については千葉県としても避けて通らないところであると思います。そういった中、環境省がモデル事業ということで、天然記念物に指定されている群れを対象に事業を実施するということですが、県としても皆様方の協力を得ながら成果が出るように協力して進めていき、その成果を活用しながら千葉県としても対策していければと考えております。</p>
高橋議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまのお2人のご説明につきまして御質問等ございますか。</p> <p>ないようですので、その他で何かございますか。</p> <p>ないようですので、議長の職を解かせていただきます。</p> <p>ご協力ありがとうございました。</p>

島田生涯学習  
課長

それでは、以上をもちまして、平成26年度 第1回 天然記念物  
「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理委員会会議を閉会  
といたします。ありがとうございました。

